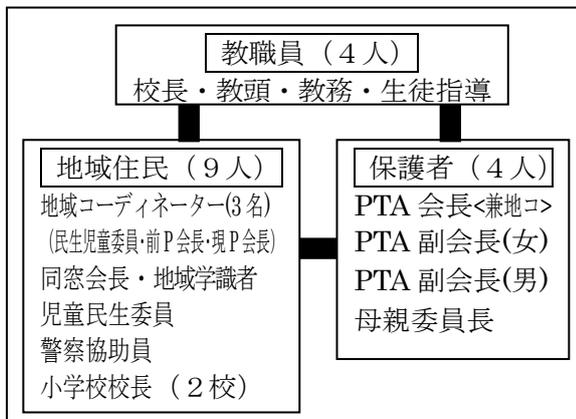


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

若狭町立上中中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の設置と運営

(1)「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2)協議会の内容

開催回数	年間3回
開催日程	6月13日, 9月7日, 2月6日
協議内容	第1回:学校教育方針と学校評価に関する説明 第2回:学校行事(体育祭)の参観, 1・2学期の教育活動の説明と学校評価中間報告 第3回:1年間の教育活動の成果と課題。次年度に向けた提言。学校評価最終報告。

(3)協議会における成果と課題

地域と学校の課題だけにとどまらず、学校の働き方改革のあり方(特に部活動)について、幅広く意見をいただいた。働き方改革に対する保護者や地域の受け止め方を知る機会になった。どうしても学校側からお願いすることが多くなり、協力を願う場となってしまいがちであった。

2 地域と進める体験事業

(1)活動のねらい

ふるさとの良さや課題に気づき、ふるさとをさらに良くしていこうとする態度・実践力を育む。

(2)活動の実際

「未来創造プロジェクト～わかさのまちづくり～」(3年)

3年間の学習の集大成として、観光や特産物、食、自然などの10班に分かれてまちづくりについての提案を考えた。地域の飲食店や工務店、瓜割名水公園、北川管理事務所などにご協力を依頼し、自分たちのプランが実現可能であるかを探究した。

2月には、町長や関係課の課長を学校に招き、若狭町への提言を行った。まちの落ち着きを生かして活気をと考えた班は、昼は図書館やカフェ、夜は星空が楽しめる施設を提案し、観光客が自然の良さや豊かさを知ることが大事だと発表した。また、特産の熊川葛を用いたドリンクの開発や、熊川しいたけを使った創作料理で誘客、瓜割の水を使った化粧水を販売するプランなどを発表した。



(3)地域コーディネーターの活動概要

ふるさと学習を行う際、一部の訪問先ではあるが、地域コーディネーターが調整役となって、生徒と地域をつないでいただき、そのおかげでスムーズな調査・取材活動を行うことができた。

(4)特に工夫した事項

3年生では、修学旅行時に、東京で活躍する上中中の先輩のもとを訪ねた。今まで、ふるさと学習では、ふるさとのことはふるさとで学ぶ視点しか持っていなかったが、伊藤忠の小林栄三特別理事をはじめ、世界を舞台に活躍されている先輩方も、実はそのアイデンティティーが「ふるさと上中」で育まれていたということに気づく大きなきっかけとなる取組となった。

(5)成果と課題

本校では、全学年を通じて「ふるさと学習」を中心に据えた活動を展開している。各学年のステージにおいて、ふるさとについて考えることができた。

一方で、限られた時間の中で生徒の興味関心に応じた学習活動を展開することは難しい。限られた時間(時には限られた活動資金)の中で、いかに効率的・効果的な活動を展開していけるかが大きな課題である。